



笑って長生き！

NPO
法人 笑顔工場

メイミ

目次

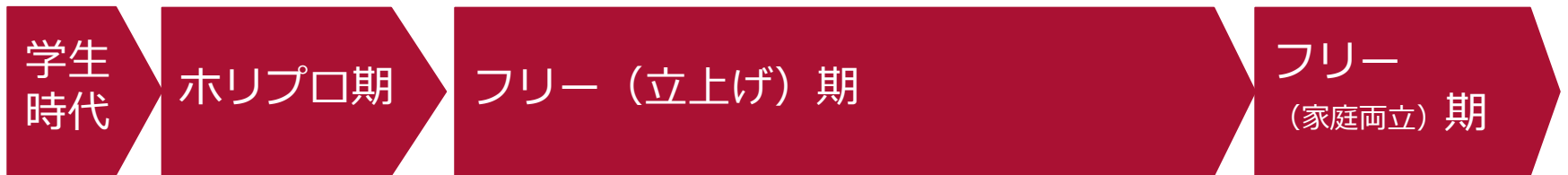
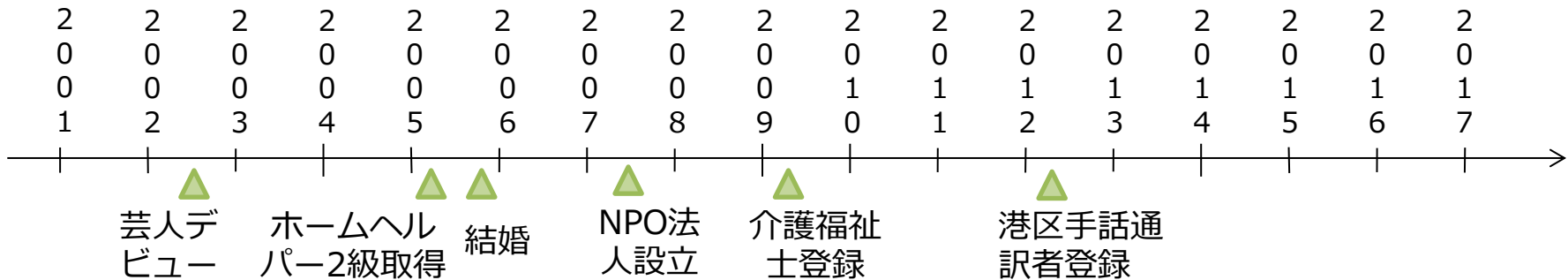
- 1. 自己紹介／活動紹介**
- 2. 2050年 私たちの社会**
- 3. 知ってもらいたい高齢社会と介護の現場**
- 4. 高齢者福祉を盛り上げよう！**

1-1. 自己紹介

- メイミ
- 1980/12/4 36歳 O型
- 既婚、子供なし
- モットー：
笑って長生き、笑顔は副作用のない魔法のお薬
- 職業：
介護福祉漫談家（東京演芸協会）・笑顔工場理事長
- 資格：介護福祉士、港区手話通訳者、
その他 カウンセリングスキルベーシック・トップメンタルトレーニング終了
心理アロマアドバイザー
アートセラピーメンタルケアアドバイザー・シニアアートワークセラピスト
- 趣味：ポールダンス、座禅



1-2. 芸歴



- ①お笑い芸人（のちに介護漫談家として浅草の寄席などで活動をする）
- ②デイサービスセンター勤務（いわゆる介護の仕事）
- ③笑顔工場 高齢者施設での演芸ライブ活動を芸人仲間とともに展開
- ④講演（介護士向け、介護士予備軍向け）（本格化）

2-1. 2050年、アラウンド70の私のイメージ

- **介護福祉漫談家から“要介護 漫談家”へ**
～介護器具を駆使して介護士の力を借りずにお笑いステージに立ち続ける。介護ロボットとコンビを組んで絶妙な掛け合い！
- **実生活では夫が認知症を発症、老々介護生活**
～にも関わらず、24h対応型の介護サービスのおかげでストレスも少なめ。夫のリアルなボケに突っ込む心の余裕あり
- **街のバリアフリー化が進み、外出も快適**
～大好きな旅行もイケメン介護士のサポート付きで続けられる
- **世界中に茶飲み友達**
～施設に出入りする十代から同世代まで、幅広く茶飲み友達がいる。インターネットや自動翻訳機のおかげでイタリアにボーイフレンドが出来る
- **安楽死について考える**
～“笑って長生き”をモットーにやりたいことを楽しんできたけれど、自分らしい人生について考えると、“安楽死”もひとつの手段と思うことがある

2-2. 2050年の社会のイメージ

1. いつまでも美しく、お洒落を楽しむ

高齢者用の服の機能性やデザインが各段に向上したので、お洒落が楽しめる。また美容技術も進歩したので見た目もこころも若々しいアクティブシニアが増殖

2. 介護の仕事はちびっこの将来の夢ランキングの1位

行き届いたこころのケアができる若手の人気介護士がブーム、ちびっこの憧れの的。彼ら仕事ぶりを毎週放映する番組が人気、子どもは介護士ごっこで遊ぶ

3. 老人ホームのオープン化～自由に行き来できる

施設同士の連携が進み引越しもできる。施設は日本全国のみならず海外も選べる

4. お年寄りも世界中を旅する

世界中の人がかつての介護士のように理解があるので、体が多少不自由になっても気兼ねなく旅行を楽しめる

5. 世界では日本の介護を学ぶことがステイタス

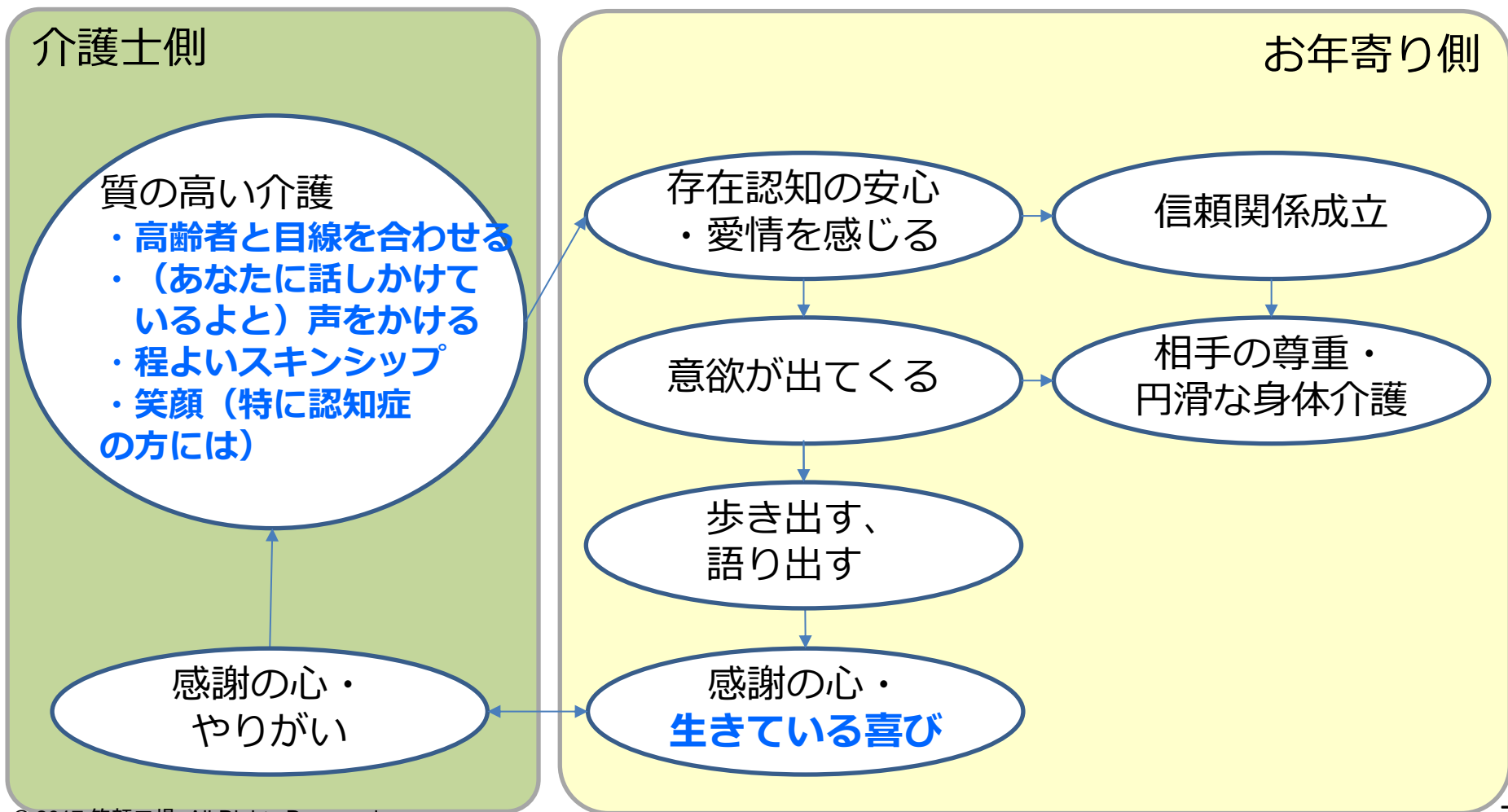
身体介護の8割はロボット、介護士のこころのケアレベルも高く、日本の介護は世界でも最先端といわれている。各国から留学生が学びにくる

6. 共生社会～障害や認知症は一つの個性

障害者や認知症の人々が当たり前前に社会に受け入れられている（こころのバリアフリー）

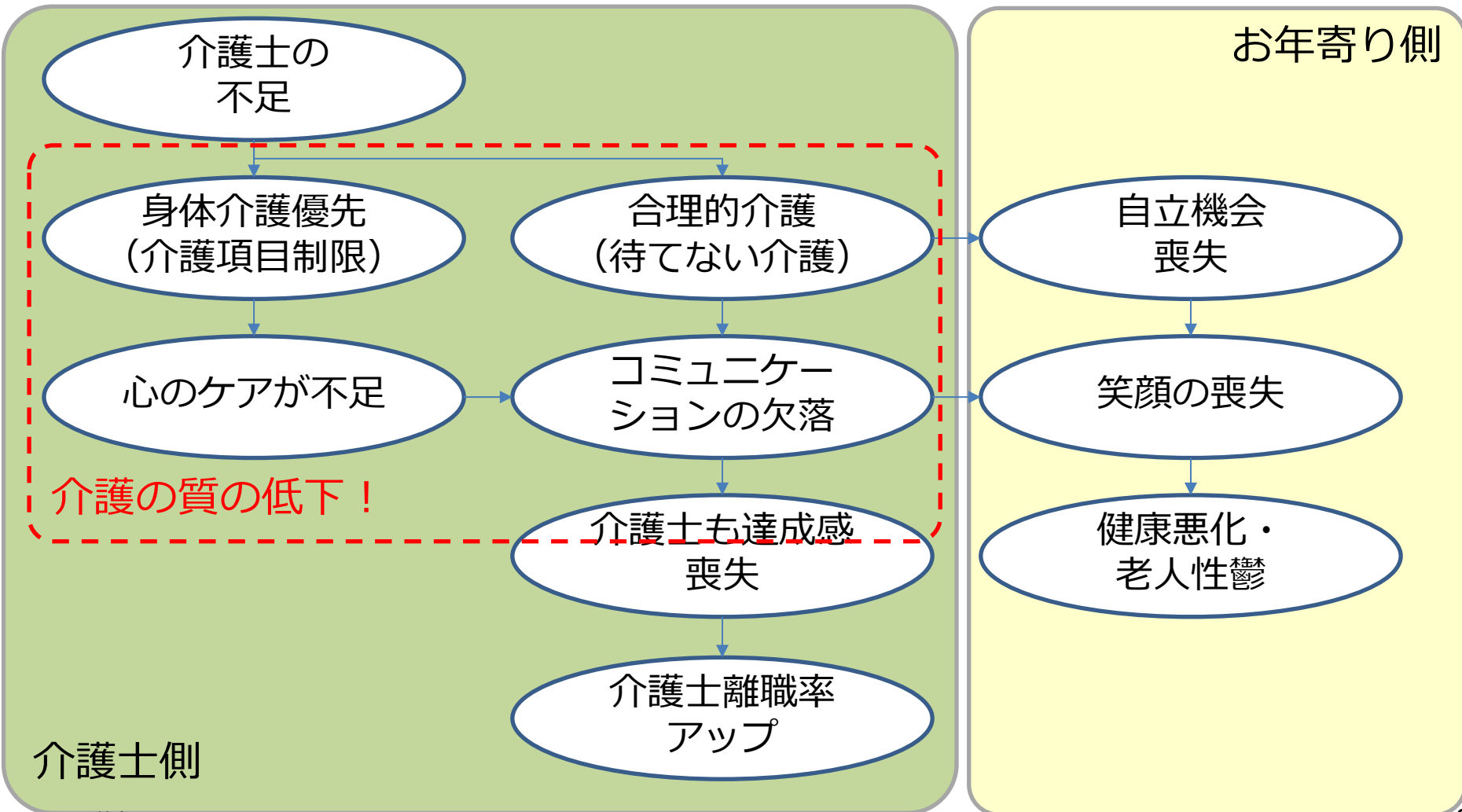
3-1. 介護の仕事とは？～好循環例

介護の仕事は高齢者のお風呂やトイレのお世話などの身体介護のイメージが強いが、高齢者に寄り添ってその人らしい人生を実現することのお手伝いがあるのがその本質



3-2. 悪循環例～よくある身体介護優先の弊害

しかしお年寄りと介護士の歯車がかみ合わないと一生懸命やるほど悪循環、負のスパイラル介護が。これまで現場ではよく起こってきたケース



3-3. 業界全体の概況

- A) 日本全体としては2042年まで**高齢者人口は増加傾向**。若年層は減少しつづけ、**高齢者比率は高まる**（P15 図1）
- B) **認知症患者数は増える一方**で、2025年には**高齢者の5人に1人**といわれている（P15 図2）
- C) **介護士数**は増加傾向ではあるが、**高齢者の増加率に追付かない**（P15 図1、P16図3）
- D) **介護士離職率**はなかなか下がらない（P16 図4）
- E) **離職の理由**、法人や事業所の**運営に不満**や**職場の人間関係に問題がある**ケースが増加している(P17 図5,6)
- F) 仕事柄**ストレスも多く**、**虐待件数**が飛躍的に増大している（P18 図7,8）

4-1. 今後の取組み案（1 / 3）

1. 高齢者の楽しみの拡大～いつまでも美しくお洒落を楽しむ

1. 高齢者ファッションショーの開催
2. 老人スポーツ大会の開催
3. お年寄り、更には要介護者の自立的な仕事への支援
4. 新しい技術や機器のお年寄りの使用支援
5. 高齢者産業の助成・育成（服、美容、補助道具等）

2. 介護士のイメージアップ

～介護の仕事はちびっこの将来の夢ランキングの1位

1. “介護士”に代わる格好いいネーミング
2. メディアとタイアップして介護士番組を定期的に
3. ミス介護、ミスター介護コンテスト
4. 高校生の授業カリキュラムに高齢者福祉を常設

今後の取組み案（2 / 3）

3. 老人ホームのオープン化～自由に行き来できる

1. 事業者同士のネットワーク構築・推進
2. 老人ホーム留学制度の推進
3. 介護士交換制度

4. お年寄りも世界中を旅する

1. 介護士の世界的な連携支援
2. 空港や交通機関との連携支援
3. お年寄りに使える翻訳機開発

今後の取組み案（3 / 3）

5. 世界では日本の介護を学ぶことがステイタス（質向上）

1. **カリスマ介護士チーム立上げ**と介護施設巡業指導プラン推進による、現場管理レベルの向上
2. 質の高い介護士の育成～**コミュニケーションやエンターテインする力を訓練**
3. 領域を跨いだ介護士の育成～ケアマネ・介護・看護

6. 共生社会～障害や認知症は一つの個性

1. **やさしさ通帳**の導入（やさしさにはやさしさを返す仕組みの導入）
2. **認知症患者によるカフェ運営**（ex. ダイアログインザダーク）
3. **介護職体験教室**（キツザニアの大人版。一般市民対象）

最後に～介護福祉への私の思い

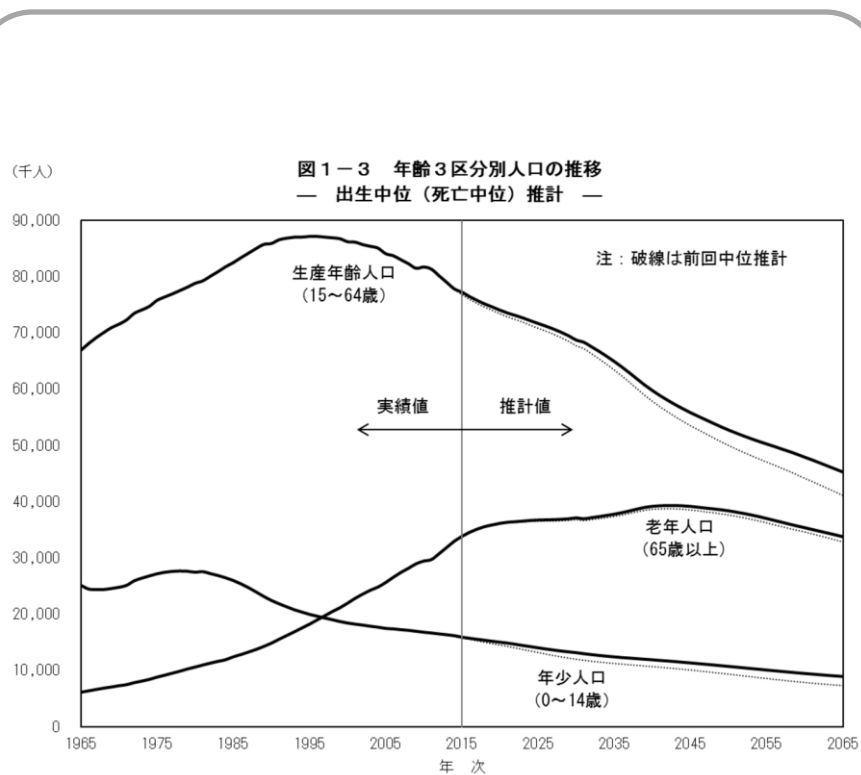


ご協力お願いします！
ご清聴、誠にありがとうございました！ メイミ♡

参考資料

参考資料) 統計(1/4)

【図1】

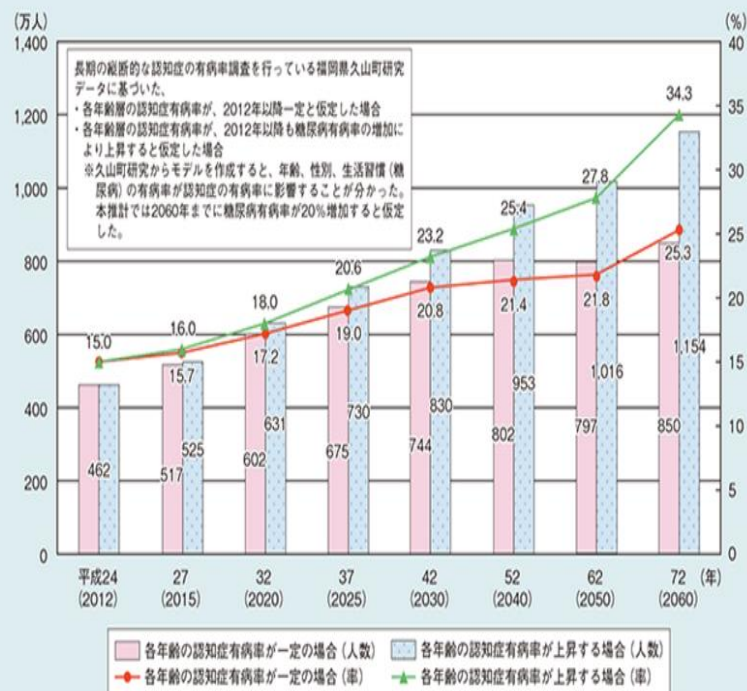


日本の将来推計人口

出典：国立社会保障・人口問題研究所資料

【図2】

図1-2-3-3 65歳以上の認知症患者数と有病率の将来推計



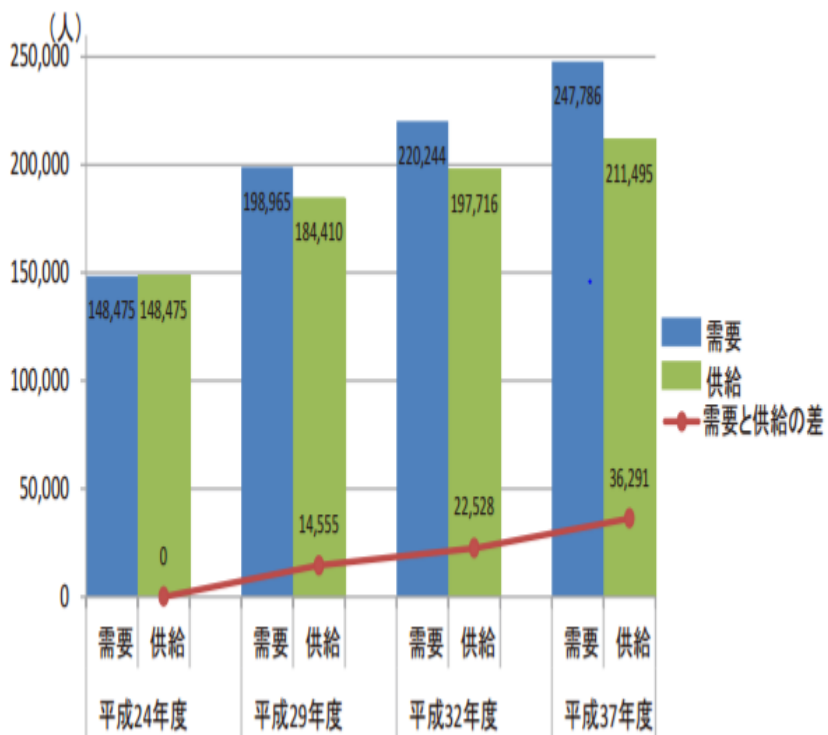
資料：「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」(平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業 九州大学二宮教授)より内閣府作成

認知症人口推移

出典：平成28年度版高齢社会白書(内閣府)

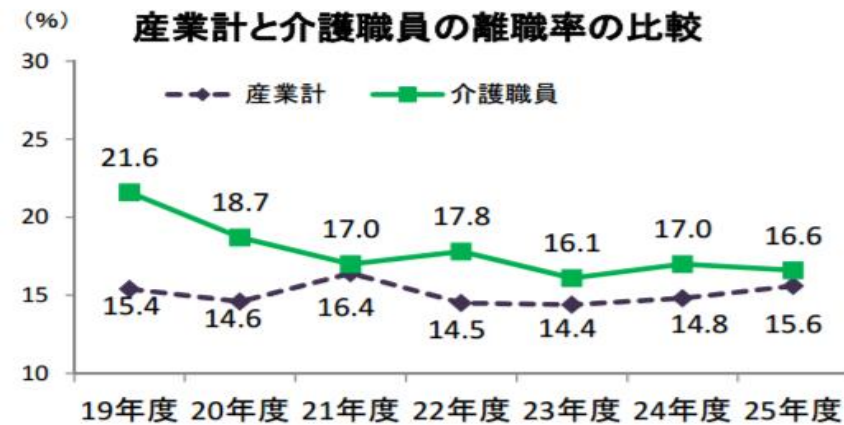
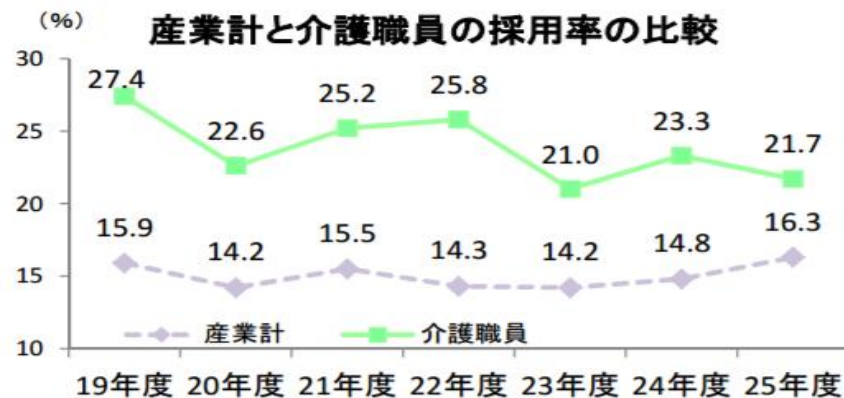
参考資料) 統計(2/4)

【図3】



介護士数推移 (東京都)

【図4】



離職率推移

参考資料) 統計(3/4)

【図5】

	介護福祉士 (N=21,899)
法人・事業所の理念や運営の在り方に不満があった	33.5%
職場の人間関係に問題があった	29.4%
利用者やその家族との関係に問題があった	1.8%
収入が少なかった	28.0%
労働時間・休日・勤務体制が合わなかった	21.4%
業務に関連する心身の不調(腰痛を含む)	16.8%
転居の必要性(家族の転勤や地元に戻る等を含む)	7.8%
出産・育児と両立できない	8.4%
家族等の介護・看護	4.8%
業務に関連しない心身の不調や体力の衰え	5.2%
専門性や能力を十分に発揮できない仕事・職場だった	14.7%
より魅力的な職種が見つかった(他の資格取得を含む)	11.4%
友人に転職を誘われた	7.4%
将来のキャリアアップが見込めなかった	17.6%
同業種で起業・開業	2.3%
人員整理、退職勧奨、法人解散等	5.0%
その他	16.5%
(無回答)	3.0%

前の福祉・介護・医療分野の職場をやめた理由 H27年度
(介護士)

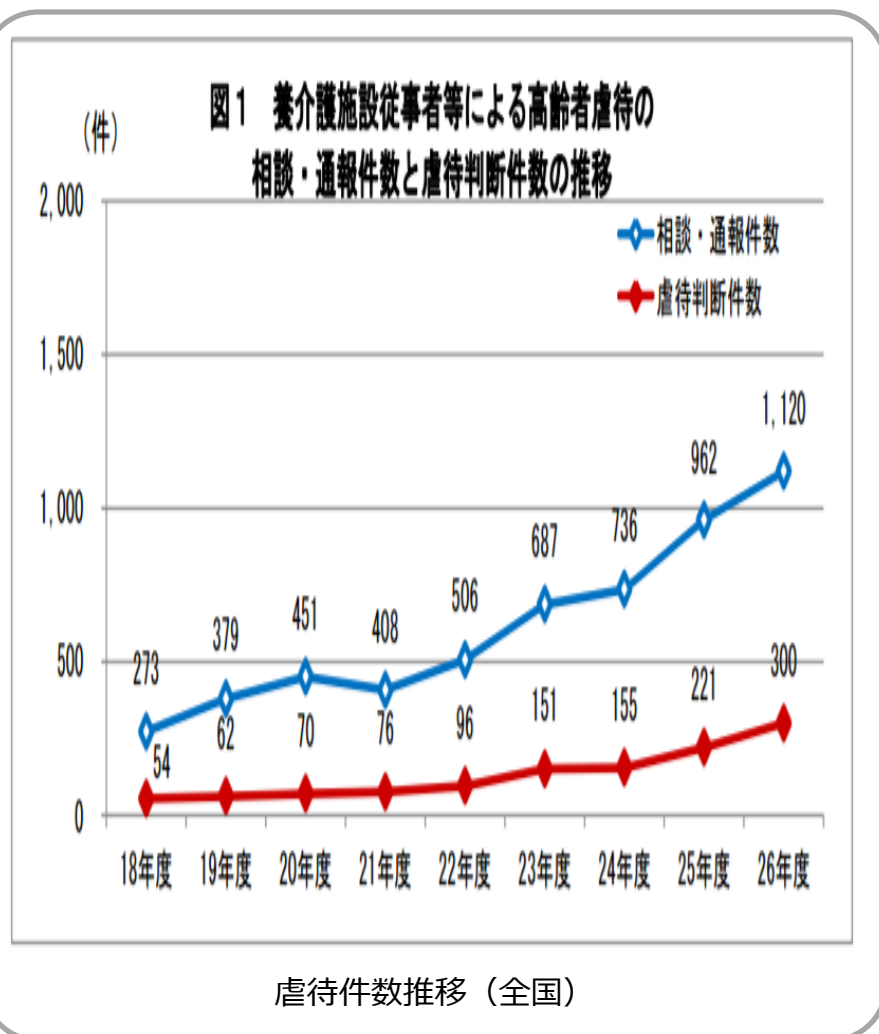
【図6】

	介護福祉士 (N=19,572)
法人・事業所の理念や運営のあり方に不満があった	25.0%
専門性や能力を十分に発揮・向上できない職場・仕事だった	13.2%
職場の人間関係に問題があった	24.7%
利用者・家族との関係に問題があった	2.0%
収入が少なかった	23.5%
将来の見込みが立たなかった	12.2%
労働時間・休日・勤務体制があわなかった	18.9%
いろいろな職場を経験してみたかった	10.9%
新しい資格を取得した	4.2%
起業・開業した	0.9%
人員整理、勧奨退職、法人解散、事業不振	3.7%
家族の転勤・転居	5.3%
心身の不調(腰痛を除く)、高齢	22.0%
腰痛	14.3%
結婚、出産・育児	31.7%
家族等の介護・看護	13.1%
その他	19.7%
(無回答)	3.3%

前の福祉・介護・医療分野の職場をやめた理由 H24年度
(介護士)

参考資料) 統計(4/4)

【図7】



【図8】

表7 虐待の発生要因(複数回答)

内容	件数	割合(%)
教育・知識・介護技術等に関する問題	184	62.6
職員のストレスや感情コントロールの問題	60	20.4
虐待を行った職員の性格や資質の問題	29	9.9
倫理感や理念の欠如	20	6.8
虐待を助長する組織風土や職員間の関係性の悪さ	17	5.8
人員不足や人員配置の問題及び関連する多忙さ	15	5.1
その他	3	1.0

(注)回答のあった294件の事例を集計。

虐待理由